

日 時：平成 28 年 11 月 24 日（木）18 時 30 分 ～19 時 30 分

場 所：原田農業研修センター

対象地区：原田

参加人数：8 名

■意見交換

内 容
<p>○大手企業との知名度向上へ向けての連携について (市民からの要望、意見)</p> <p>今年 7 月行政委員連絡協議会の研修で岩手県遠野市へ行かせてもらいましたが、その研修資料の中にたくさんパンフレット等がありました。この地域は、東北でも指折りのホップの産地ということにして、8 月末に「ホップ収穫まつり」開催というチラシが入っていました。どういったものかと興味があり 8 月 25 日・26 日開催ということでしたので行ってみました。こちらは「遠野物語」で全国に名前が通っている市ですから平川市と比べるのもどうかとは思いましたが、キリンビールとコラボしてやっております、まつり自体は 2 年目ということでしたが、結構人が集まっております。スーパーでも最近、「キリンビール一番搾り遠野産」というのが売られております。スーパーでも一角を使って宣伝しておりました。キリンビールなどの一部上場企業などと組んでやると知名度も上がるし、コマーシャルでは人気グループの嵐が出ております。竹馬みたいなものに乗ってホップを収穫している様子などが放送され、非常に宣伝になっていると感じます。平川市でも、桃の関係で東京の有名レストランと取引があると聞いたようなことがあります。有名店ですがこのことは、ほとんど知られてはいないと思います。これから平川市として際立つためには、ねぶたといっても青森、弘前と先駆者がありますし、りんごといってもこの辺一帯どこでもあるし、一つ特異なものを出すためには、大手企業のように大々的に宣伝してくれるようなところの力を借りれば、知名度向上に繋がるところですが、まずもって取り組む素材があればいいのですが、どのようにお考えでしょうか。</p> <p>(市の回答)</p> <p>・合併して平川市となって 10 年、どういう形で平川市を発信すればいいかと職員一同いろいろ考えながらやってきたが、全国的に平川市が普及しているとは言えないと思う。11 月 12 日～14 日熊本においてイオングループと農協と組みながら、青森県のフェアということで津軽みらい農協のリンゴ、物産については、木村食品とカネショウで行った。1 週間位のフェアで知事と一緒に前へ出て実施してきた。ねぶたは、どこにでもあるとのことであるが、昨年度作った可動式のトラックで移動できるものだが、これを北九州の飯塚市のイオンのお店で女子囃子組と一緒にリンゴ販売をして好評を得ている。去年は四国の松山市にも行っており、ここへは年明けにもまた行く予定となっている。松山市は人口 50 万人と大きな市で、こちらへは平川市のリンゴは届いていないようで、良</p>

いりんごだと好評を得ている。このようにトップセールスが続けているが、中々一気に知名度を上げるということは難しいものである。ただ、一つひとつ継続していくことで、平川市の知名度を上げていかなければと考えている。ふるさと納税のリンゴ、桃に対して去年は 12,000 件以上の納税者があった。今年も現時点で 8,000 件の申し込みがあり、これは全国至るところからの申し込みであり、いい宣伝になっていると思う。今年はリンゴのみならず桃も出している。また、平川牛ということで牛肉も追加し、つい先日には青天の霹靂も入れている。様々思考を凝らしながら、全国からふるさと納税を集めて、地域づくり、平川市の活性化、子ども達のために使わせていただいている。

- 今年も様々なコラボを考えている。10周年ということでいろいろ企画したのですが、中々応募してもテレビ等に採用してもらえないのが現状である。例えば、ナインティーンナインの男女の出会い番組やNHKののど自慢、お宝鑑定団等に申し込みはしているが、難しいものである。全国放送のテレビに出れば、平川市の知名度も上がると思うが、今後もそういうことも探りながら、合わせて地道に物販も進めて行きたいと考えている。ねぷたに関しては、近年、人気があり2日しかやっていないが、平川市のねぷたを見たいという人が増えていると聞いている。今年も平日の2日間でしたが、2日目の方が人が多く来ていて、これまでは2日目は人出が少なくなっていたのですが、今年は来ていただいている。
- また、先日、小中学校生にワールドカフェという形式で平川市の魅力について、話し合ってもらったが、結構多くの意見に「世界一の扇ねぷた」という声があった。作ってから20年以上になるが、これを一つの材料にできないかと考えている。

#### ○農地中間管理機構について

(市民からの要望、意見)

先日、東奥日報に県の広告が載っておりまして、内容は耕作しない農地は農地中間管理機構へお貸しくださいというものでした。いつからの事業かはわかりませんが、平川市の現状やメリットなどありましたら詳しく教えていただきたい。

(市の回答)

- 現状をお伝えすると平川市では、農地中間管理機構を利用する貸し借りは少ないものである。出来れば利用していただいておりますが、現状は親戚や知り合いなどの相対での貸し借りが多く、こちらの機構に登録する面積は少ないと感じている。市民の皆さんにも高齢化等により使わなくなった農地は登録してもらえれば、欲しい人が現場確認しながら貸し借りできるものなので、登録していただければと思う。
- この事業は平成27年度からスタートしている。人・農地プランというものを各地域に作ってもらって、その中に地域の農家の担い手を位置づけしている。その担い手に農地の集積が図られた場合には、協力した農家に協力金が交付される仕組みとなっている。平成28年度の経営転換の協力金は、5反部歩以下の農家でリタイアする場合には1戸について30万円、5反歩から2町歩以下の方には50万円、2町歩以上の方は70万円と

なっている。また、集積についても割合に応じて 2 割から 5 割の割合で集積する農家には、H28・29 年度では 1 反歩あたり 15,000 円、H30 年には 10,000 円という協力金が交付される。それから、地域内で協力する方にも H28、29 年度は 10,000 円で H30 年度は 5,000 円の協力金の制度を設けている。

中間管理機構は、その事務の一部を市町村に委託しており、平川市であれば農林課が担当している。従来、農地の貸し借りは農業委員会でやってきたが、農業委員会と連携して、交付金の対象になるものは中間管理機構を通して、農家にも有利な形で進められるよう調整している。情報がありましたらお知らせいただければ力になれるのではと思っている。

(市民からの要望、意見)

その事業の説明会があつて紹介があつたのでいきましたが、農林課担当者の説明では平川市の場合は、作る人も一緒に連れていかないとまとまらないと、ただ貸す人だけで行ってもまとまった実績がないとのことでしたが、それは本当の話なのでしょうか。

(市の回答)

・平賀地域は、生産組合が多いことから割と農地の動きがない状況である。実際に手放したい方がいても組織で作業している手前、中々進んでいないものとする。一方で尾上地域では、個人で経営している方が多いので集積はそちらに集中していく傾向にある。問題は田の場合、水の問題があり、条件の良い所が欲しいということと、手離す側もどういう人が作るのかが非常に気になるということが問題となっている。従来どおり草刈等実施して管理してくれる方であれば貸してもいいけれど、人によっては年に 2 回位しか刈らない人もあり、その後の管理が気になるものである。出来るならばその地域内で集積できればいいのだが、お話されたような問題は残っている。県からは、集積率を上げるように指導されますが、実際のところは、このような問題が残って進みにくいのが現状である。農業で生計をたてていくため、農地を集積し効率を上げていきたいという方はいるのだが、離す側の事情や気持ちが汲まれていないというデメリットがあり、中々進んでいない状況である。

○大相撲平川場所について

(市民からの要望、意見)

今年 10 周年で大相撲が来まして、周りからも平川市もたいしたものだなと言われておりました。相撲に関するエピソードなどありましたらご紹介いただけないでしょうか。

(市の回答)

・約 3,000 人の方に見てもらった事ができた。特別なエピソードというのは、ありませんが、元々はこの事業は昨年やることで考えていた。一昨年、岩木山関、現在の境川部屋の関ノ戸親方から平川市で大相撲やらないかとの誘いがあった。準備に時間がかかるのどち

ようど10周年事業ということで、体育協会に元請をやってもらうことで今年の開催となった。興行は初めてのことで、ある意味で不安もあったのだが、多くの人に来ていただき、利益も出たところである。市の予算と体育協会の予算とで実施したのだが、800万円ほど残った。これは、スポーツの市の代表として県外等の大会に出場する際に、市の補助に該当しない方がおり、選抜の代表とかがそうなのだが、これらの人たちに体育協会から補助してもらおうということとしている。これがエピソードになるかはわかりませんが、市内外から多くの人たちに来てもらい、楽しんでもらった事は嬉しく思っている。

○市内循環バスについて

(市民からの要望、意見)

市の循環バスについて、これは赤字なのではないでしょうか。今後高齢化も進み移動手段が限られてきますので、多少赤字であっても続けてもらいたいと思います。

(市の回答)

・続けて欲しいとのことであるが、高齢化が進み移動手段が無くなる方が出てきているので、やれる分についてはやりたいと考えている。今年、碓ヶ関地域から平賀地域までのバスを8月から10月の3ヶ月間やりましたが、1日2往復、乗った方は平均2.5人いかないう状況で1日8人という結果であった。アンケートの内容を見ると今までは弘前市に行っていたのが、平賀地域へ来るようになったと、土日にイベントをやっているの、それにも出してもらいたいという要望もあった。これをどうするのか検討中である。碓ヶ関にはホームマックニコットという店が出来て食料品も置いているが、それでも平賀地域まで買物に行きたいという声もある。それらを考慮しながら、バスを検討したいと思う。一方、葛川・小国地区からの要望もあり、この地区は黒石市までのバスはあるのだが平賀地域までは中々来られないということである。循環バスの試験は過去には尾上地域でもやったが、碓ヶ関地域より乗車人数が少ないものだと記憶している。これは廃止になり、現在は平賀地域の4路線をやっているという状況である。何とか維持して行きたいと思っているが、年間2~3,000万円費用が掛かってしまう。碓ヶ関や東部地区は、過疎債という財政上有利な起債を使うことができる。これらを含めて検討し、あまり費用がかからないようであれば継続を考えていかなければと思っている。また、離れた地域で買い物できない高齢者に対して、全国でも何例かあるが、食料品をバスで届けるとか、注文によってお届けするという事例もあるので、そういう事も場所によっては考えていかなければと思っている。

○道路の拡幅について

(市民からの要望、意見)

原田農業研修センターから南側に続く通りは、1年間に50台位道路から車が落ちるところです。4t車とのすれ違いは非常に危険で4t車以上を通行止めに出れないものでしょう

か。冬には1日に7から8台落ちた時もあります。

(市民からの要望、意見)

私も同意見で、自転車でも歩くにしても危険で仕方ない。道路拡幅方法には、土地を買収しなくてもコンクリート製品の側溝を水路に入れて、その上を走れるようにできないものか。

(市の回答)

- ・サンフェスタへ抜ける車もあり、交通量が多いところである。広域農道を通ってくればいいのだが、他に通る道路があるのでそちらを使ってもらえればいいと考える。
- ・交通規制は県の管轄になるが、簡単にはかけられないと考える。
- ・提案の方法で道路を広げるとなると水路が低い位置にあるので、土留めが必要になると想定され、かなりの費用を要することになる。落差があるので田んぼへ侵入することも難しくなり、やるとすれば用地買収をして拡幅する方が、安くすむと想定する。確かに私どもも狭いとは感じているので、町会でどうしても必要だということであれば用地買収の協力等と合わせて再度検討いただき要望いただければと思う。拡幅方法の検討はしてみるが、今すぐに実施とは行かない。

○友好親善交流都市について

(市民からの要望、意見)

平川市の姉妹都市や交流している都市は全国に何箇所あるのですか。最近のひらかドームでのイベントに山田町とか来ていないようですが。

(市の回答)

- ・現在は1箇所である。合併前は旧尾上町が宮城県亘理町、旧平賀町が岩手県の山田町と鹿児島県の知覧町とやっていた。合併協議の中で何箇所とも継続することは難しいことなので、現在の南九州市に絞ったと聞いている。亘理町や山田町とは、地域での交流はあったので、自治体間ではなく民間で交流を続けてもらうということにした。

(市民からの要望、意見)

全国に「ひらかわし」は何箇所位あるものですか。津軽みらい農協だと、「みらい」の付く農協で集まって交流してイベントなどやっていますが。

(市の回答)

・全国に「ひらかわし」は他にないと記憶している。「ひらかわ」は平川に由来しているので中々他では付けにくいと思う。

○雪捨て場について

(市民からの要望、意見)

雪捨て場について、これまではひらかドームの隣にあったが2期工事をしているので、新たな場所は指定しているものか。

(市の回答)

- ・松崎地区の平川河川広場を予定している。ただし、豪雪時のみの開設と考えている。

(市民からの要望、回答)

弘前市の堀越が近くていい。あそこは、誰でも捨てていいと聞いています。黒石市まではちょっと遠すぎる。

(市の回答)

- ・堀越は、弘前市の雪捨て場なので利用することはできません。

○消火栓について

(市民からの要望、意見)

消防の話ですが、回らない消火栓が結構あります。蛇口には普段あまり触らないことと、指導されていますので対応をお願いします。

(市の回答)

- ・このようなお話があった事を、係を通して消防へ伝える。